

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「次代の地域社会における良識ある担い手」を育成するため、生徒に次の3つの力を育み、生徒の自己実現を支援する。

1. 知力・体力・人間力！～《自ら学ぶ力》の育成
2. 進路（自己）実現をめざす！～《セルフ・コントロールの力》の育成
3. 人権感覚と豊かな人間性！～《人間関係づくりの力》の育成

2 中期的目標

1. 「自ら学ぶ力」の育成

(1) 学習への興味・関心の向上、基礎学力の定着及び進路目標の早期設定等を通して、意欲、自信と達成感を高め、自ら学習する態度を身に付けさせる。

ア 「わかる！楽しい！授業づくり」をめざし、公開授業、研究授業及び授業アンケート等を活用した授業改善を進める。

指標 授業アンケートの「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的評価の平均値が平成30年度で85%以上。(平成27年度77.3%)

指標 学校教育自己診断(生徒)の「授業はわかりやすい」の肯定的評価を平成30年度で70%以上(平成27年度実績63.1%)、「授業は楽しい」を同65%以上。(平成27年度54.8%)

イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし、朝学習や習熟度別少人数授業等を含めたカリキュラム等の工夫・改善を図る。

指標 授業アンケートの「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定的評価の平均値が平成30年度85%以上。(平成27年度78.5%)

指標 外部教育産業の試験の2年次3教科(国数英)の平均点偏差値が1年次を5.0ポイント以上上回る。(平成27年度37期生は2年次に1.3ポイント上昇)

(2) 生徒の言語活動を充実させる。

ア グループワーク等の協同学習を通して、生徒の言語活動を充実させる。

指標 普通科総合選択制高校共通アンケートの「(a)自分で考える力」、「(b)自分を表現する力」、「(c)発表する力」、「(d)相手とコミュニケーションする力」の肯定的評価の平均値が平成30年度で70%以上。(平成27年度平均値63.8%：(a)72.2%、(b)63.3%、(c)52.8%、(d)66.7%)

指標 学校教育自己診断(教職員)の「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」の肯定的評価が平成30年度で85%以上。(平成27年度74.2%)

イ 学習した内容を発表する機会を設け、生徒のプレゼンテーション能力を高める。

指標 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的評価が平成30年度で70%以上。(平成27年度55.2%)

2. 「セルフ・コントロールの力」の育成

(1) 生活習慣の形成を図り、規範意識の醸成と社会人としての態度・マナーを育成する。

ア 遅刻・欠席等の状況を改善するとともに、授業規律を確立させる。

指標 平成30年度遅刻数を7,000回以下、欠席数を8,000回以下とし、以降も毎年減少させる。(平成27年度「遅刻」9,460回、「欠席」8,375回)

指標 学校教育自己診断(生徒)の「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定的評価がH30年度50%以上。(平成27年度24.6%)

イ 「ダメなものダメ」と厳しく指導しつつ、生徒一人ひとりの課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導を行う。

指標 学校教育自己診断(生徒)の「①伯太高校の先生は生徒の意見を聞いてくれる」、「②悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」、「③学校生活についての先生の指導は納得できる」、「④生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定的評価平均値が平成30年度65%以上、うち①65%、②70%、③60%、④65%以上。(平成27年度平均値57.0%：①57.5%、②59.6%、③53.1%、④57.9%)

(2) キャリア教育の一層の充実を図るとともに、進路意識を高めること等を通して自己実現を支援する。

ア エリア選択と自由選択科目のガイダンス、進路LHR、「総合的な学習の時間(GS)」の取組み等を通して、進路目標を具体的にもたせる。

指標 本校独自で実施する進路実績満足度(卒業時)が毎年80%以上。(平成27年度88.4%)

指標 進路決定率(3月末)が平成30年度95%以上。(平成27年度91.8%)

イ 資格取得の支援やインターンシップの内容充実をめざすとともに、進学希望生徒の増加を踏まえ、適切な学習機会の提供等を行う。

指標 「漢検」「数検」「英検」「書写検定」「パソコン検定」等の資格取得者数が平成30年度300名以上(平成27年度223名)、インターンシップ単位認定者数が20名以上。(平成27年度14名)

指標 大学合格者(関関同立・産近甲龍・同程度の大学)が平成30年度10人以上。(平成27年度0人)

指標 大学入試センター試験受験者が平成30年度10名以上。(平成27年度1人)

3. 「人間関係づくりの力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自らの課題に向き合い課題を解決する取組みや生徒同士がつながる取組みを推進する。

ア 生徒の学校生活満足度を高め、生徒の協調性や自主性を育む集団づくりの取組みを推進する。

指標 学校教育自己診断(生徒)の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定的評価が平成30年度70%以上、「自分の学級は楽しい」が80%以上。(平成27年度「高校に行くのが楽しい」58.3%、「学級は楽しい」66.8%)

イ 校内の環境及び施設設備を充実させ、部活動を活性化させる。

指標 部活動の加入率を40%以上、及び運動部の加入率を15%以上。(平成27年度：部活動32.5%、運動部11.0%)

(2) 地域等とつながる取組みを進め、「地域とともに子どもを育てる」という機運の醸成に努めるとともに、国際交流等を通してグローバルな視野を広げる。

ア 地元和泉市や近隣の学校園等と連携する取組みや生徒が海外や地域で行う取組みを推進する。

指標 現行の取組み(あいさつ運動、清掃活動、支援学校交流、保育所交流、サイエンスカフェ等)を充実させるとともに、国際交流等を含めた新たな取組みを模索する。

4. 教職員の育成

(1) 教職員の組織的・継続的な育成を行う。

ア 経験の比較的に少ない教員を授業研究や分掌業務等のOJTを通して、学校全体で育成する。

指標 学校教育自己診断(教職員)の「初任者等、経験の少ない教員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定的評価が平成30年度80%以上。(平成27年度74.2%)

イ 概ね10年までの経験をもつ教員等を学校組織の中核として配置すること等を通して、ミドルリーダーを育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>(1) 「自ら学ぶ力」の育成 生徒の「授業は分かりやすい」が58.0%と昨年度よりも若干低下した一方、教員の「学習形態の工夫・改善」は87.1%と増加していることから、アクティブ・ラーニングの一層の研究と教える内容を充実させることで、生徒の「自ら学び続ける力」をさらに育成する必要がある。</p> <p>(2) 「セルフ・コントロールの力」の育成 進路に関する回答結果が全体的に良くなってきていることから、今後も、生徒の悩みの相談や一人ひとりの課題に応えながら、キャリア教育を中心に丁寧な支援を継続していく。学習規律の確立に課題が依然残っており、規範意識のさらなる醸成が必要である。</p> <p>(3) 「人間関係づくりの力」の育成 生徒の「自分の学級は楽しい」が63.0%と昨年度よりも若干低下した一方、保護者の「子どもは高校へ行くのを楽しみにしている」が74.3%と子どもの数値を上回っていることから、両者間で意識のずれが生じている。一層きめ細かな学級経営を行っていく。生徒の伯太高校を選んだ理由が「総合選択制だから」「学びたいエリアがあるから」が初めて1・2位となったことから、今後とも、学習指導を中心に、総合学科としての特色を一層進めていく必要がある。</p> | <p>第1回(6月11日)「学力の育成、授業改善について」 生徒が授業に前向きに取り組んでいる。また、プロジェクター、タブレット等のICT機器が活用されているのもよい。</p> <p>第2回(11月12日)「生徒の自主性・主体性の育成について」 文化祭の一般開放は中学生・保護者及び地域から信頼されている証拠。また、PTAや後援会から支援を行った備品が学校行事等で活用され続けていることもよい。</p> <p>第3回(3月4日)「進路指導・生活指導について」 生徒の進路希望を叶えるため、進学と就職の両面をさらに強化してほしい。また、安全安心な学校づくりと地域等とのつながりを継続することで魅力的な学校づくりを今後も推進してほしい。総合学科として新たな取組みに期待したい。</p> |

3 本年度の取組み内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組み計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------|--|--|---|---|
| 1. 《自ら学ぶ力》の育成 | <p>1. 学習意欲を高める取組みの推進 ア. 「わかる！楽しい！授業づくり」</p> <p>イ. 基礎学力の定着をめざす取組み</p> <p>2. 言語活動の充実 ア. 言語活動の実施頻度と内容の充実</p> <p>イ. 発表する機会の充実</p> | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業・研究協議と保護者向け公開授業を積極的に推進する。 全教員がICTを適宜使用するとともに、授業におけるICTの活用方法を改善する。 アクティブラーニング等の生徒の主体的活動を取り入れた授業を推進するため、教職員研修を企画・実施する。 <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習、習熟度別少人数指導等、基礎学力の定着をめざす取組みを充実させる。 授業力向上に関する委員会を立ち上げ、授業方法等の改善をはじめ、家庭での学習時間の確保や宿題の工夫等について具体的に検討する。 勉強合宿の内容を充実させ、参加生徒を増やす。 <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> グループワーク等の協同学習を充実させる。 <p>2イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のプレゼンテーション能力を高める。 | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部に公開する研究授業数15回程度（H27年度10回） 授業アンケートの「授業に興味・関心をもつことができたと感じている」82%以上（H27年度77.3%） 学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」65%以上（H27年度63.1%）、「授業は楽しい」60%以上（H27年度54.8%） 授業力向上のための教職員研修の実施2回（H27年度0回） <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの「授業を受けて知識や技能が身についたと感じる」83%以上（H27年度78.5%） 外部教育産業の試験において2年次3教科（国数英）の平均点偏差値が1年次を3.0ポイント上回る（37期生1.3上昇） 授業力向上に関する委員会の協議を8回（H27年度2回） 勉強合宿参加生徒が前年度より増加（H27年度25名） <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科総合選択制高校共通アンケートの(a)～(d)平均値65%以上<中期的計画欄参照> 学校教育自己診断（教職員）の「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」80%以上（H27年度74.2%） <p>2イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」60%以上（H27年度55.2%） | <ul style="list-style-type: none"> 13回（◎） 75.0%（△） 「わかりやすい」58.0%（△） 「楽しい」44.2%（△） 3回（◎） 75.8%（△） ±0ポイント（△） 10回（◎） 28名（◎） (a)65.2%（○） (b)58.4%（△） (c)49.5%（△） (d)62.8%（△） 87.1%（◎） 45.6%（△） |
| 2. 《セルフ・コントロールの力》の育成 | <p>1. 生活習慣の形成に係る取組みの推進 ア. 遅刻指導の工夫・改善と授業規律の確立</p> <p>イ. 生徒指導の充実</p> <p>2. キャリア教育の充実 ア. 進路目標の早期設定の取組み イ. 資格取得支援とインターンシップ充実と進学向け学習機会の提供</p> | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導についての工夫し、遅刻者数を減らす。 授業規律の確立に向け、授業中の私語等を減らすよう、適切な指導を行う。 <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導体制を充実させる。 <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導計画を充実させ、具体的な進路目標をもたせるための指導を行う。 <p>2イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得のための取組みを充実させる。 インターンシップの内容を充実させる。 大学等受験に向けての指導を充実させる。 | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数9,000回以下（H27年度9,460回）、欠席数8,000回以下（同8,375回） 学校教育自己診断（生徒）の「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」30%以上（H27年度24.6%） <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）の①～④平均値60%以上<中期的計画欄参照> <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時での進路実績満足度80%以上（H27年度88.4%） 進路決定率90%以上（H27年度91.8%） <p>2イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 「漢検」「数検」「英検」「地図地理」「書写検定」「パソコン検定」等の資格取得者数250名以上（H27年度223名） インターンシップ単位認定者数20名以上（H27年度14名） 大学合格者（関関同立・産近甲龍等）3名（H27年度0名） 大学入試センター試験受験者3名以上（H27年度1名） | <ul style="list-style-type: none"> (◎) 遅刻数7,167回 欠席7,473回 21.5%（△） (a)47.9%（△） (b)48.1%（△） (c)41.5%（△） (d)51.2%（△） 86.4%（◎） 86.8%（△） 268名（◎） 20名（○） 1名（△） 0名（△） |
| 3. 《人間関係づくりの力》の育成 | <p>1. 生徒同士がつながる取組み ア. 集団づくりの充実</p> <p>イ. 部活動の活性化</p> <p>2. 地域等とつながる取組み ア. 地域等との交流・連携</p> | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が企画し運営できるよう、学校行事を工夫し充実させる。 学年や学級及び部活動を核とした集団づくりを推進する。 「伯太高校レーダーチャート」を生徒一人ひとりの課題や生徒状況の把握に活用する。 <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の発表等の場を増やす。 後援会等からの部活動支援を通して、校内環境や施設整備を充実させる。 <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行の取組みを継続し充実させるとともに、中学校や大学等の教育機関や海外との新たな連携を模索する。 | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（生徒）「伯太高校に行くのが楽しい」62%以上（H27年度58.3%）、「自分の学級は楽しい」72%以上（H27年度66.8%） 学校行事等における集団づくり10回実施（H27年度11回） 「伯太高校レーダーチャート」を引き続き活用 <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率40%以上、運動部加入率15%以上（H27年度：（部活動）32.5%、（運動部）11.0%） <p>2ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域、中学校、大学等と連携した取組み20回以上（H27年度20回） 海外等との国際交流2回以上（H27年度1回） | <ul style="list-style-type: none"> 「高校楽しい」54.1%（△） 「学級楽しい」63.0%（△） 15回（◎） 実施し活用（◎） 部活動加入率40.6%（◎） 運動部加入率14.5%（◎） 46回（◎） 2回（◎） |
| 4. 教職員の育成 | <p>1. 組織的・継続的な育成 ア. 経験の少ない教員の育成 イ. ミドルリーダーの育成</p> | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任者を含めた経験の少ない教員が授業研究や分掌業務等において教師力を総合的に高める。 <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね10年までの経験を持つ教員等を学校組織の中核として配置する。 | <p>1ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教職員）の「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定的評価が平成28年度80%以上。（平成27年度74.2%） <p>1イ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 分掌長や学年主任の候補に育成 | <ul style="list-style-type: none"> 45.2%（△） 4名育成中（◎） |